

## コラム 81 ー 上智大学名誉教授渡部昇一氏「かくて歴史は始まる」

上智大学名誉教授である渡部昇一氏はその著書である「かくて歴史は始まる」（三笠書房）において、日本が大東亜戦争に突入せざるを得なかった大きな理由として次の4つをあげています。

第1は、アメリカの人種偏見と西進政策から来た対日敵視政策、またそれに  
関連しての日英同盟の廃止

第2に、日本の経済を危機に追いやったアメリカ、イギリスのブロック経済  
への突入。

第3に、北から迫るソ連の共産主義の脅威

第4は、元老という歯止めを失った明治憲法の欠陥であった

そして、次のように述べています。

「日本は人類最大ともいえる大戦争に突入し、そして敗れた。しかし、もし日本があ  
あの戦争を避けえたとしたら、今日の世界はどうなっていただろうか。もしあのまま、  
人種差別が世界的に維持され、ブロック経済で世界の貿易が閉ざされていたら、日本  
は産業国家として首を絞められた状況のままであったろう。日本があの大戦で負けて、  
その犠牲になった人たちのことを考えれば今でも心は安らかではない。しかし、  
人類の歴史から見れば、あのような大規模な戦いは人類最後の戦争だったということ  
に、今さらのように気がつく。太平洋のような広大な戦場で、大機動部隊を用いた戦  
争を数年間も続けるというようなことは、当時の日本とアメリカのみがなしえたこと  
であった。結局当時の2大海軍国であったアメリカと日本が正面からぶつかったのが  
あの戦争だったのだ。そして、それ程の戦いであったからこそ、戦争が終ったとき、  
世界の歴史は大きく動きはじめたのであった。これがただの2国間戦争であったなら、  
戦争が終れば何事もなかったかのように歴史の流れは元どおりになっていたであろ  
う。つまり、世界の歴史は日露戦争以前の状態に復帰し、人種差別は続き、現在でも  
有色人種は白人たちの支配を受けていたにちがいない。だが、そうはならなかった。  
日本の敗戦で歴史の流れが逆流するどころかかえってその勢いはほん流のごとくに  
なり、世界中から人種差別が追放され、多くの植民地が独立するという結果になった。  
また、世界各国はブロック経済を捨て、自由貿易を盛んにするための努力を続けるよ  
うになった。日本は敗れたが、結果は日本の望むとおりになったのである。歴史にお  
けるパラドックス（逆説）を日本は実現したのである。」